

1997年1月18日(土)～1月26日(日)

平塚市史料展 ◆歴史の向こうの心に逢う◆
「平塚の中世近世絵画」



十一面観音曼荼羅図 神田宗庭筆 (平塚市博物館所蔵)



釈迦涅槃図 藤原美信筆 (大神観音堂所有)

平塚市教育委員会は、平成4年度から5カ年計画で「平塚市中世近世絵画調査」を実施してきました。今回の平塚市史料展は、この調査で得られた成果を公表するものです。

この調査からは、市内の寺社に伝わる数多くの絵画の所在が明らかとなりました。

その中には、制作が中世にまで遡る古いものもありました。また、江戸時代以降の作品であっても技術的に優れた作品もいくつかあり、こうした文化財的価値の高いものについては、すでにいくつかを市の重要文化財として指定しました。

善徳寺の法然上人像、長善寺の観心十界曼荼羅図、真福寺の親鸞聖人像・浄土七高僧像・聖徳太子像・蓮如上人像、福田寺の十六羅漢図及び十王図などは、今回の調査で、文化財としての価値が明らかとなり、市指定重要文化財とな

ったものです。

今回の調査で、もう一つの成果は、藤原美信という絵師の作品が市内に多く存在していることがわかったことです。

藤原美信は、各々の絵の落款・印章などから「東川斎桂山藤原美信」と名乗り、その年記から制作活動の時期が江戸時代末の天保年間であることがわかるものの、その来歴については不明で、いまのところ謎の絵師といってもよいでしょう。ですが、市内にまとまって作品が存在すること、制作活動時期がほぼ把握されることなどから、当時の平塚の文化状況を知るうえで、歴史的にも重要な人物だといえます。

今回の史料展は、これらの作品を含めて、市内に存在する絵画のいくつかを集め展示いたします。普段は目に触れにくいものばかりです、この機会にぜひご参観ください。

開催期間 1月18日(土)～26日(日)

会場 博物館特別展示室

■問い合わせ 社会教育課文化財保護係 0463-35-8124 [直通]